

地域支え合いセンター



丸森町社会福祉協議会
マスコットキャラクター
うぐたん

神明北住宅（災害公営住宅）の入居スタート



▲2戸分の長屋が7棟整備されています。

鳥屋地区除北に整備している災害公営住宅のうち木造平屋14戸が完成し、3月1日から入居が始まりました。3年以上を過ごした花田仮設を出て新たな暮らしを始める方は「年齢的なこともあり生活面での不安は感じているが、新しい地区での生活は楽しみです。」と話していました。5階建て災害公営住宅の入居は夏に予定されており、コミュニティの本格的な始動は秋以降の予定です。

一方、町営神明住宅の鉄筋コンクリート5階建ては、3月27日に鍵の引き渡しが始まります。5階に整備された一時避難所を兼ねた集会所の内装は、入居前の意見交換会で入居予定者が話し合っただけのものが使われており、入居開始後に利用可能となります。令和元年東日本台風により町営住宅で被災した世帯に加え入居者の一般募集（広報まるもり2月号掲載）による約10世帯の入居も決まっています。



▲町営神明住宅5階ベランダからの眺め

社会福祉事業功労者表彰式記念講演「被災後の地域福祉を考える」



2月11日、新潟県村上市を拠点に活動する(特非)都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税事務局長をお迎えして「被災後の地域福祉を考える」と題した講演を行っていただきました。少子高齢化社会への漠然とした不安を言語化・見える化していただき、前例のない時代（現代）のコミュニティにおける支え合いについて様々な事例を紹介していただきました。



勉強で分からない所があると優しく教えてくれて、とても勉強がはかどり好きになりました。(A)

授業で分からなかった問題を、分かりやすく楽しく教えてもらいました。(H)

分からない所は分かるまで教えてくれて楽しく勉強ができ、前より勉強が好きになりました。(M)

友達や先生と楽しく勉強することができ、とてもいい時間を過ごすことができました。(Y)



みんなと問題を解き合いながら楽しくできて、とてもよかったです。(H)

まなびの森の先生は学校の先生より教え方がわかりやすく、来て良かったです。(M)

あまり話したことが無い人ともすぐ仲良くなる事が出来て、先生方もとても優しくかったです。(M)

みんなと助け合いながら勉強ができて、楽しかったです。(H)



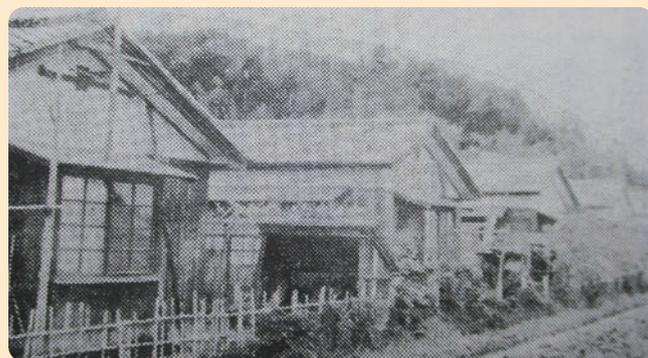
丸森町 町営住宅ものがたり

第二次大戦終結前後の生活の荒廃は、衣・食だけでなく、住宅にも及びました。特に戦後は、海外からの引き揚げ者や復員者などの帰郷で人口は増加し、結婚ブームやベビーブームの時期を迎え、一方、資材の欠乏等で住宅の新增築はほとんどできず住宅に困る人が増えました。このため政府は公営住宅法等を制定し、結果として住宅建設が進み、状況は大きく緩和されました。

公営住宅は、昭和26年度以降、町村合併までに丸森町・大内村・館矢間村に合わせて71戸が建設され、合併後も虚空蔵住宅・玉川住宅・鳥屋住宅と整備は続きました。

昭和38年の虚空蔵住宅以前に建てられた住宅は入居者に払い下げられており、現在も生活が営まれている最も古い町営住宅は玉川住宅ですが、その玉川住宅も耐用年数を過ぎており、令和5年度には役目を終えて解体が予定されています。

(出典：丸森町史)



▲昭和26年整備 町営雁歌住宅

お詫びして訂正いたします

かわら版第17号裏面の記事「神明住宅の入居が始まりました」において、内容に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

「丸森町に初めて町営住宅が建設されたのが昭和41年」は、正しくは「鳥屋地内に初めて町営住宅が建設されたのが昭和41年」です。

教えてくださったSさま、ありがとうございました！

